



外観



蓋裏 1



蓋裏 2

まつば まつかさ まきえ じゅうばこ だい
松葉松毬蒔絵重箱・台 (当館蔵)

図案化された松葉と松かさを、金蒔絵であらわした重箱とその台です。同形同大のものが2具あり、蓋裏の意匠のみが異なり、一方は霞と3羽の飛ぶ鶴（蓋裏1）、他方は若松と2羽の飛ぶ鶴（蓋裏2）が描かれます。

現在の美馬郡つるぎ町半田では、江戸時代から昭和にかけて漆器が生産され、半田塗または半田漆器とよばれました。その製造販売の中心が敷地屋大久保本家でした。この重箱・台は、同家に伝来した半田塗の優品です。

企画展「まぼろしの漆器 阿波の半田塗」(会期：2026年4月25日(土)～5月24日(日))では、いまでは知る人の少なくなった半田塗を紹介します。(美術工芸担当：大橋俊雄)

広がる園芸スイレンの脅威

内藤 芳香

はじめに

「スイレン」と聞いて、皆さんはどんな植物を想像しますか？きれいな花を思い浮かべる人や、クロード・モネの睡蓮の絵を思い浮かべる人もいるかもしれません。スイレンは、分類学的にはスイレン科 *Nymphaeaceae* スイレン属 *Nymphaea* というグループに属し、これらの植物は水の中に生育しています。葉と花を水面上に浮かべ、白、赤、ピンク、黄、紫など、色とりどりの花を咲かせる非常にきれいな植物です。しかし、人が作り出した栽培品種を除くと、自然に生まれた種は世界で約40種程度、日本ではヒツジグサとエゾベニヒツジグサの2種しか生育していません。では、私たちが近くの池で見たスイレンや庭で育てているスイレンは何なのでしょう？実は、身近にみられるスイレンのなかまは「園芸スイレン」と呼ばれるものです。今回はこの園芸スイレンについて紹介します。

園芸スイレンとは？

園芸スイレン *Nymphaea* cvs. という名前は、海外から日本に持ち込まれた種や栽培品種に対する総称です。つまり、園芸スイレンという種はなく、日本在来のスイレン以外は園芸スイレンに含まれます。近年、園芸スイレンが野外のため池で繁茂していることが問題になっています（図1）。

園芸スイレンの多くは、土の中にある根茎（図2）という部分を横に伸ばしてどんどん増えていきます。そして、園芸スイレンが増えると、他の生物の生育場所を奪うだけでなく、水面を葉が覆いつくすことで水中に光が入りにくくなったり、大量の葉が枯れることで水質が悪化したりと、生態系に深刻な影響を与えます。その影響の大きさから、環境省が定める「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」において、重点対策外来種に指定さ



図1 野外に逸出した園芸スイレン
(2020年7月2日撮影 新潟県上越市)



図2 横に這うように伸びた園芸スイレンの根茎

れています。このような園芸スイレンに対して駆除が必要となっていますが、園芸スイレンには多様な種や品種が含まれているため、色や形もさまざままで、日本在来のヒツジグサと見分けることが難しい場合もあります（図3）。

どうやって駆除するの？

園芸スイレンの駆除には、主に3つの方法があります。1つ目は、水面に浮いている葉を刈り取ることによってだんだんと弱らせていく方法です。葉のみを刈り取ることはさほど難しくありません。しかし、栄養を貯めこんでいる根茎は残っているため、何度も、何年も刈り取り続ける必要があり、時間と手間がかかります。2つ目は、シートをかぶせて光を遮断し、光合成をできないようにする方法です。この方法はシートをかけておくだけなので、お金はかかりますが手間はあまりかかりません。しかし、シートをかけることで、他の生物にも影響を与えてしまいます。3つ目は、土の中から根茎を掘り返して個体そのものを取り除く方法です。根茎はしっかりと根を張りながら横に伸びているので、掘り取るには大変な労力がかかりますが、確実に個体数を減らすことができます。

実際に、野生化してしまった園芸スイレンの駆除は日本各地で行われています。例えば、世界遺産に登録されている北海道知床国立公園にある知床五湖の一湖では、外来種問題に取り組む地域イベントとして園芸スイレンの葉の刈り取り活動が続けられています。福島県矢ノ原湿原では、福島大学の黒沢高秀教授らが根茎からの掘り取りによる駆除を行い、5年の歳月をかけて駆除を完了させました。国内の自然公園等での一定規模の集団で駆除が成功したのは、これが初めてではないかと言われています。しかし、目に見える株はなくなっても、残っているタネからまた成長してくる可能性もあるため、定期的なモニタリングが必要となります。一度野生化してしまうと、駆除することはとても大変なのです。

おわりに

きれいな花を咲かせるスイレンを栽培するのは大変楽しいです。しかし、野外に広がってしまった場合の生態系へ影響は甚大で、駆除には多大な時間と労力が必要となります。栽培するときは庭の池や睡蓮鉢などで育て、タネや個体がほかの場所に広がらないよう注意する必要があります。

(植物担当)



図3 類似するが、花弁や萼の形状が異なる園芸スイレン（左、中央）と、日本在来のヒツジグサ（右）

企画展 まぼろしの漆器 阿波の半田塗

徳島県美馬郡つるぎ町半田では、かつて木地に漆を塗る漆器が作られました。それは半田塗または半田漆器と呼ばれ、生産が18世紀前半に始まり、1970年まで続きました。製品は、庶民むけの膳碗が中心で、商圏が四国、近畿、中国、九州、関東などの広い範囲におよび、盛時の半田は、西日本有数の漆器産地として知られました。しかし現在は、地元でも生産されていた事実を知る人が少なくなり、どのような製品なのかほとんど分からなくなっています。

近年、かつて半田塗の製造販売の担い手であった、敷地屋大久保本家の子孫の方より、当館や徳島県立文書館に資料が寄贈されました。この展示では、それらの寄贈資料を中心に、半田塗について紹介します。

会期 2026年4月25日(土)～5月24日(日)

休館日 月曜日(5月4日を除く)、5月7日(木)

会場 徳島県立博物館1階 企画展示室

観覧料 一般400円、高校・大学生200円、小・中学生100円

※土曜日・日曜日・祝日は高校生以下無料

※幼稚園・保育所、学校(高等教育機関を除く)、社会福祉施設等での利用は無料

※高齢者(65歳以上)は半額(証明書等の提示が必要)

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳等の所持者及び介助者1名は無料

※20名以上の団体は2割引

展示構成

- (1) 漆器いろいろ
- (2) 敷地屋大久保本家の漆器
- (3) 半田塗に関わる文書など
- (4) 半田塗の諸相

展示解説

日時 4月26日(日)

5月5日(火・祝)

5月24日(日)

いずれも13:30から14:30まで

会場 企画展示室

※企画展観覧料が必要です



槻総朱目出塗立丸膳 当館蔵



総朱八十物・膳 神宮寺蔵



遊楽模様大平 当館蔵



朱溜内黒若松蒔絵碗 当館蔵



若松宝尽蒔絵重箱 当館蔵

勝浦町産の竜脚類の歯化石

徳島県勝浦町には、白亜紀前期の地層である物部川層群が分布しています。1994年4月、勝浦町から四国で初めてとなる恐竜化石（鳥脚類イグアノドン類の歯）が、高知大学の学生（菊池直樹氏）によって発見されました。その後、長い間、徳島県内で新たな恐竜化石の発見はありませんでしたが、2016年7月、勝浦町で化石採集を行っていた田上浩久氏・竜熙氏親子が、22年ぶりとなる第2例目の恐竜化石を発見しました。見つかった化石は、1994年のものとは異なり、竜脚類ティタノサウルス形類とよばれる恐竜の歯でした（図1）。竜脚類は、長い首と尾を持つ大型の恐竜で、全長30メートルを超える種も知られています（図2）。

1994年と2016年に発見された化石は、いずれも地層から抜け落ちた転石から見つかりました。そのため、徳島県立博物館は福井県立恐竜博物館、徳島県化石同好会などと共同で調査チームを結成し、2016年12月から恐竜化石を含む地層（恐竜化石含有層）の探索調査を開始しました（図3）。初回である12月の調査において、勝浦町の山中でトリゴニオイデスとよばれる淡水生二枚貝やスポン類の甲羅の化石を産出するポイントを確認

しました。これらの発見により、恐竜化石を含有する可能性が高いポイントとして、継続的な調査を行うことになりました。そして2018年4月、当館の学芸員（筆者）と化石愛好家の奥平耕右氏が、地層中から恐竜の可能性が高い化石を発見しました。この化石を慎重にクリーニングした結果、2016年に発見されたものと同じ竜脚類ティタノサウルス形類の歯であることが判明しました（図4）。この発見は、地層中から直接見つかった徳島県初の恐竜化石であり、同時に恐竜化石含有層の確認という重要な成果でもありました。

現在までに、勝浦町からは31点の恐竜化石が発見されており、そのうち13点が竜脚類の歯です（2026年1月時点）。つまり、発見された恐竜化石の半数近くを竜脚類が占めています。竜脚類の歯は、勝浦町における恐竜化石の再調査のきっかけとなった重要な化石です。また、2026年は、その化石の発見から10年を迎える節目でもあります。（地学担当：辻野泰之）



図1 徳島県から22年ぶりに発見された恐竜化石（竜脚類の歯化石）（2016年発見）



図2 竜脚類ティタノサウルス形類の生体復元（イラスト：山本匠）



図3 2016年12月に実施した恐竜化石含有層の探索調査の様子
参加者（敬称略）は、中尾賢一・辻野泰之（徳島県立博物館）、東洋一・園田哲平・河部壮一郎（福井県立恐竜博物館）、田上浩久・田上竜熙（徳島県化石同好会）、奥平耕右

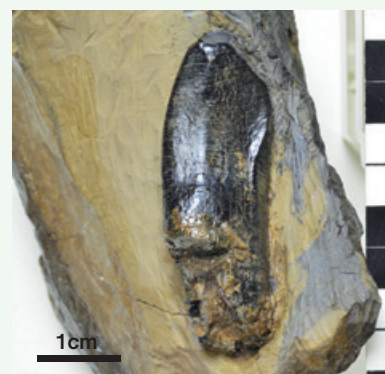


図4 勝浦町の地層中からはじめて見つかった恐竜化石（竜脚類の歯化石）（2018年発見）

技の継承を支えるもの

— 阿波の^{たふ}太布製造技術から考える —

無形の文化財を守り、継承することは、容易ではありません。それは、文化財の保持者（認定された団体など）の地域での関係性のなかで成り立ち、継承されていくものだからです。ここでは、国指定重要無形民俗文化財である「阿波の太布製造技術」を例に、そのあり方を考えてみたいと思います。

太布とは、コウゾなどの^{じゅひせんい}樹皮繊維から糸を取り、それを織った布のことです。この太布を製造する技術は、かつて山間地において日常的に用いる衣類や小物を作るため、各家で保持されていました。しかし、日常の衣類が市販品に置き換わるにつれ、こうした技術は暮らしのなかで必要とされなくなっていきました。

そうしたなか、徳島県那賀町木頭和無田では、原料となるコウゾの栽培から、^{なかつまきとうわんだ}樹皮繊維の採取、糸づくり、太布の製織に至るまでの作業が、その後も継続されてきました。その中心となったのが、旧木頭村（現・那賀町）の年配者を中心とするグループです。こうした活動を基盤として、阿波太布製造技法保存伝承会（以下、保存会）が保持者となり、2017年に無形民俗文化財に指定されました。

太布製造工程のなかで、毎年1月中旬に行われるのが「カジ蒸し」と呼ばれる作業です。これは、刈り取ったコウゾの樹皮をはぎ取り、太布の材料となる繊維を確保するための工程です。樹皮をスムーズにはぎ取るため、^{こしき}甑と呼ばれる大型の桶（高さ約2メートル）を用いて蒸します。水の入った釜の上に乗せたコウゾを立て、その上から甑をかぶせて蒸すという方法です（図1）。



図1 甑と釜でコウゾを蒸す

2026年1月の作業では、新調した甑が初めて使われました。これまで使ってきた甑の傷みが大きくなったためです。保存会の仕様に合わせて甑を新調するのは、保存会にとっても初めての経験でした。これまでは、かつて各家で使われていた甑を譲り受け、修理しながら使用してきました（図2）。

この甑を新調するにあたり、それを製作する職人の存在と、その技術は欠かせません。作業に用いる釜の口径に合わせて甑の口径を調整し、切りそろえたコウゾの長さに応じて甑の高さが決められました。材料となる木や竹は徳島県産のものが用いられましたが、それらを確保することも職人の役割でした。最終的には、使用者である保存会と調整を重ねながら作業現場で仕上げられました。

甑は太布製造技術を構成する用具の一例にすぎません。その他の用具や工程にも、それぞれに関係者が存在し、別の技術によって支えられています。これらの技術が総合的に継承されることで、太布製造技術の継承が可能となるのです。

（民俗担当：磯本宏紀）



図2 保存会所蔵の歴代の甑。
手前が今回新調したもの

ルーミスシジミは どこにいますのでしょうか？

ルーミスシジミ (*Arhopala ganesa loomisi* (H. Pryer, 1886)) は空色の翅が美しいシジミチョウの仲間です (図-1)。当館の常設展示室内の、「徳島の自然とくらし」で標本を展示しており、ミュージアムショップで販売されている博物館友の会オリジナルのクリアファイルにも写真が掲載されています。先日、このクリアファイルをご覧になった県民の方から、本種と思われるチョウを徳島市内で撮影したと連絡が入りました。こんな街中にルーミスシジミがいるのだろうか…と思い実際に写真を確認したところ、このチョウは近縁種のムラサキシジミであることが分かりました (図-2)。よく似ていますが、ムラサキシジミは翅の表が濃い青色で、裏が茶色であること、ルーミスシジミより一回り大きいことなどから、両者を区別することができます。

日本国内には、このチョウの仲間が3種生息しています。ルーミスシジミはイチイガシやウラジロガシの葉を餌としています。阿南市と海陽町のごく一部の豊かな照葉樹林の溪流沿いでのみ見ら

れ、人里や市街地に飛んできたとの報告はありません。ムラサキシジミは県内全域の低地で最も普通に見られます。幼虫は植栽に多いアラカシなどを餌としており、餌の木が生えている雑木林や住宅地の生垣の周りを飛んでいる様子を観察することができます。ムラサキツバメは後翅の尻尾のような部位(尾状突起)が特徴で、マテバシイを餌としており、徳島市以南の低地の林や山に生息しています (図-3)。

ルーミスシジミは全国的にも千葉県、紀伊半島、四国南部、隠岐、山口県、九州南部に局所的に生息するのみで、環境省のレッドリストで絶滅危惧II類に選定されているほどのとても貴重な種です。四国では他に高知県東部で生息が確認されていますが、愛媛県や高知県西部では既に絶滅しており、徳島県南部は数少ない安定した生息地です。この環境を知り、守っていくことが、地域に残されたすばらしい自然の象徴といえる本種の未来につながります。

(動物担当：外村俊輔)



図 徳島県産の3種のチョウ

- 1 ルーミスシジミ (上：表, 下：裏)
- 2 ムラサキシジミ (上：表, 下：裏)
- 3 ムラサキツバメ (上：表, 下：裏)

4月から6月までの博物館普及行事 あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
野外自然かんさつ	のんびりゆったり植物かんさつ(春編)	5月17日(日)	10:00~12:00	不要	小学生以上(20)	同日開催「植物分類学概論2」
	文化の森クモかんさつ会春編(午前の部)★	5月24日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(15)	
	文化の森クモかんさつ会春編(午後の部)★	5月24日(日)	13:30~15:30	要	小学生以上(15)	
	川魚かんさつ春編★	5月31日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(20)	徳島市園瀬川
	文化の森の植物であそぼう	6月7日(日)	13:30~15:30	要	小学生以上(20)	
生きものしらべ隊	花巡り!植物かんさつハイキング6月~風薫る季節を体感~	6月28日(日)	11:00~17:00	要	小学生以上(15)	上勝町高丸山
	こん虫の標本をつくろう(その1)★	5月10日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(15)	(その1・その2セット)申込みは4月28日(火)まで
	こん虫の標本をつくろう(その2)★	6月28日(日)	13:00~15:00	要	小学生以上(15)	
たのしい地学体験教室	顕微鏡で植物かんさつ	5月31日(日)	13:30~15:30	要	小学生以上(20)	
	白亜紀の地層見学	5月16日(土)	13:00~15:30	要	小学生以上(20)	香川県まんのう町
歴史散歩	木の葉化石の発掘体験	6月14日(日)	13:30~15:00	要	小学生以上(15)	材料費100円(高校生以下無料)
	伊島歴史散歩	5月31日(日)	8:00~16:30	要	小学生以上(15)	阿南市伊島
古文書で学ぶ歴史入門	徳島大空襲の史跡を歩こう	6月21日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(20)	徳島市内
	ゼロからの古文書①~④	5月23日(土) 6月6日(土) 6月20日(土) 7月4日(土)	13:30~15:00	要	一般(20)	(①~④セット)申込みは5月11日(月)まで
ミュージアムトーク	植物分類学概論1-分類学とはなにか-	4月19日(日)	13:30~15:30	不要	小学生以上(15)	
	植物分類学概論2-種と種分化-	5月17日(日)	13:30~15:30	不要	小学生以上(15)	同日開催「植物かんさつ(春編)」
企画展関連行事	企画展「まぼろしの漆器 阿波の半田塗」展示解説	4月26日(日) 5月5日(火・祝) 5月24日(日)	13:30~14:30	不要	小学生以上	企画展観覧料必要
	歴史・文化コレクション「新出!断絶した人形座の資料」展示解説	4月12日(日)	13:30~14:00	不要	小学生以上	常設展観覧料必要
	歴史・文化コレクション「新出!断絶した人形座の資料」展示解説	5月10日(日)	13:30~14:00	不要	小学生以上	常設展観覧料必要
コレクションセッション関連行事	歴史・文化コレクション「新着の考古資料紹介」展示解説	6月7日(日)	13:30~14:00	不要	小学生以上	常設展観覧料必要
	自然史コレクション「サトイモ科の植物」展示解説	6月21日(日)	13:30~14:00	不要	小学生以上	常設展観覧料必要
博物館スペシャル	文化の森こどもの日フェスティバル	5月5日(火・祝)	9:30~16:00	不要	-	祝日無料

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。 ◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。 ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

普及行事のお申し込みについて

開催予定日の**1か月前から12日前**必着でお申し込みください。参加希望者が定員を超過する場合は抽選とし、結果は全員にお知らせします。また、行事の詳細は、当選者にご案内します。原則として、参加費は無料ですが、材料費をいただくことがあります。

●往復はがきでのお申し込み

1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込みすることができます。右図のように記入し、お申し込みください。

往復はがきの記入例

< 往信の表面 >	< 返信の裏面 >	< 返信の表面 >	< 往信の裏面 >
85 〒770-8070 往信 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館	何も書かないでください	85 〒0000000 返信 あなたの郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の行事名 2. 参加希望者全員の氏名(学年・年齢) 3. 住所 4. 電話番号(またはFAX番号)

●「行事申込フォーム」でのお申し込み

スマートフォン、タブレット等でQRコードを読み込み、アクセスしてください。お申し込み後に受付メールが自動返信されます。返信がない場合は、電話(088-668-3636)または、FAX(088-668-7197)でお問い合わせください。



※提供いただいた個人情報は、お申し込みのあった行事についてのみ使用します。

学校教育に博物館を!

徳島県立博物館のもつ資源(もの・情報・人)を、学校教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

- 遠足
- 博物館資料の貸し出し
- 館内授業(博物館で)
- 教材研究のお手伝い
- 出前授業(学校で)

・学習内容に関する質問や実験・観察の方法など、何でもお気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸の各専門分野の学芸員がご相談に応じます。お気軽にお電話ください。



火おこし(出前授業・館内授業)

特典がいっぱい!! 徳島県立博物館友の会

博物館友の会は、年間を通してさまざまな体験活動を行い、自然や歴史・文化について、楽しく学んでいます。

個人でも、ご家族でも、ご入会いただけます。みなさんも参加してみませんか。

- 年会費
 - ・個人会員2,000円
 - ・家族会員3,000円
 (10月以降にご入会の場合、会費はそれぞれ半額となります。)

- 会員の特典
 - ・友の会行事に参加できます。
 - ・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入することができます。
 - ・催し物案内や博物館ニュース、会報などが、毎月お手元に届きます。
 詳しくは、友の会事務局まで(電話088-668-3636)



化石をさがそう!

お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197)